

身体の状態・動き・表現 と心理的側面との関係

最終更新日：2016年8月30日

保健体育講座
教授
清水 知恵

キーワード

身体, 身体の状態, 動きの質, 表現, 感性, 感覚, 間, 共有空間, 心理

研究シーズの説明 (私は、このような研究に取り組んでいます。)

私は、舞台芸術および様々な身体表現の魅力について、運動心理面および実技面からの研究を行っています。舞台芸術に関する活動においては、毎年、ダンス公演を主催し、舞台の構成・演出・衣装・音楽・美術および出演を行い、現場で身体感覚を高めながら、ムーブメント世界を探求していきたいと考えています。

また、現在、これまでの活動を基に、人間の身体と心理面との関係、身体表現のための感性・感覚の開発を行い、現場の指導者や実技実践者へ、指導法や動きの理論、実践等、幅広く還元する活動を進めています。

研究室の学生の卒業論文のテーマとしては、「舞踊と舞踊に類する実践アプローチに関する研究」「舞踊における美しい動きの要因」「ボディ／マインド・アプローチに関する研究」「身体に表出された感情」「姿勢が心身に与える影響」などがあります。学生のこのような卒業研究のテーマに関しては、私が、これまで心理学的側面から、舞踊とその体験者の心理的変容について研究を重ねてきた結果を生かし、彼らの研究テーマになりうる広く社会が直面している様々な課題に焦点をあてます。具体的には、これからさらに、健康な身体と心を支える豊かな感性と情緒力、身体感覚や意識を向上させる方法を伝え、社会が抱える問題の解決に寄与できる新たな教育的知見を提供していこうと考えています。

成果の応用可能性 (私の活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。)

「指導者のための身体表現の極意」「指導者のための姿勢・表情」

日々の授業で必要になる、教師各自が、自らの表情と姿勢をコントロールする方法を体験を通して体感し、実際の日々の授業で、教師と児童・生徒のいる時間・空間を自分の思うようにコントロールできる姿勢・表情・呼吸コントロールによる身体操法についての習得方法を提供することなどの点での貢献が可能です。

同時に、舞踊担当教員として、学校教育の現場および運動・スポーツに関する専門分野で活動する現場の先生方に対し、提供できる身体表現のノウハウもあります。先生方が現場において、授業の実践やダンスを含むあらゆる指導を通して、豊かな身体感覚、感性および情緒力を発信するには先生方自身が優れた身体感覚、感性および情緒力を身につけていることが必要です。そのためには、身体表現や姿勢、表情の持ち方など、指導者自身の身体の動きを意識的にコントロールする技術を身につけることが大切であると考えます。現場の教員が持つ卓越した指導力が強化される身体操法を身につけ、より高度な身体の使い方を身につけてもらえるような取り組みを行えると考えています。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- 免許更新講習会：「身体表現の極意〈基礎編〉」。場所：福岡小学校。2015年8月8日(土) (6時間)
- 講演会：「ムーヴメント・スタディ～操体法&ウエルネス」。場所：福岡小学校。2015年6月26日(金) (3時間)
- 審査会：平成27年度 福岡市文化芸術振興財団ステップアップ助成プログラム審査/報告会(ダンス部門) 審査員・アドバイザー。場所：福岡市文化芸術振興財団。平成27年3月28日(4時間)
- 講演会：アーツ・スポーツカレッジ「人は何故踊るのか」。場所：岡垣サンリーアイ。2014年8月23日(土) (2時間)
- 講座：「表現運動の授業づくり」 場所：福岡市立草ヶ江小学校。2013年7月29日 (90分)